



第51回 春季全国大会

(3月26~31日・東京大田スタジアムほか)

2年ぶりの開催となった全国大会に中学生の部42(内九州ブロック9)、小学生の部16チーム(同2)が出場。日本一をかけて熱戦を繰り広げた。九州勢は中学で八幡南ボーイズ(北九州)が8強入りしたほか、1回戦スタートの糸島ボーイズ(福岡南)と浦添ボーイズ(沖縄)も2勝を挙げた。優勝は中学が県央宇都宮ボーイズ(栃木)、小学が大阪泉州ボーイズ(大阪南)だった。

▲▲ 2回戦の5回、同点のホームを踏んだ古賀涼太主将(10番)を迎え歡喜に沸く八幡南ナイン

中学生の部



八幡南8強

2戦連続逆転力投&堅守光る

八幡南は2戦続けて関東勢に逆転勝ち。チーム史上最高の全国8強に輝いた。先行されても投手陣の力投と堅守で粘り、少ないチャンスをものみにして勝ち上がっていった。

2回戦は先発の安田創磨がゲームメイク。一緊張はあったけど強気で内野を攻め、チームの流れを持ってくるような投球をしたかった」と5回を2失点。打線は4回まで1安打と着わなかつたが、5回裏に農坂大河の内野安打などでチャンスを広げ、永田祥誠の右前



2、3回戦で好投した塚本空輝

適時打などで逆転した。

6回以降は塚本空輝が好救援。一過去の試合も含めて一番良かった。体を冷やさないようタッシュしたり、いつもやっていることをやっていた結果」と無安打に抑えて初戦を突破した。

3回戦は塚本空輝が2失点完投。打線は6回に6点を奪い逆転した。この試合は左中間と右中間を破る2本の二塁打を放ったほか、5回の守備では好送球で失点を防ぎ右腕をもち立てた。

1点差で惜敗もチーム最高成績

準々決勝は延長9回タイ

2回戦の5回、中前適時打を放つ永田祥誠



昨年は12月半ばまで大会があり、今年2月には全国大会が縮小開催となった場合の予備戦が予定されていたこともありオフは例年よりもフォックの割合を増加。その成果もあって懸案だった守備力が上昇し、対戦チームからも高く評価された。徳野晴美監督は「投手中心に守りが徹底できた。安田創、塚本空の二枚看板がよく投げ、一番の古賀涼太」と3番の永田が機能した」と振り返った。一方で「全国レベルの投手を打ちあぐねていた」と課題も。攻守とも一層強化し、夏の選手権大会ではさらなる高みを目指す。

▼同準々決勝

紀州	000	010	000	2	3
八幡南	001	000	001	1	2

(延長9回タイブレイク)

【紀】	金田、高津、田又
【八】	安田、吉岡、西村
【八】	二塁打
【八】	藤井

江戸崎	000	110	0	2
八幡南	000	016	0	7

【江】小野、吉田、坂本、長谷川

【八】塚本空、西村

【八】三塁打

【小】野(江)

【江】二塁打

【飯塚(江)】永田2、田中(八)

坂戸(埼玉)	011	000	0	0
八幡南(北九州)	000	040	X	1
【坂】	鈴木翔、渡辺、本間			
【八】	安田創、塚本空、西村			
【八】	二塁打			
【八】	鈴木陽、織田(坂)			